

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2774201798		
法人名	社会福祉法人 親和会		
事業所名	グループホーム末広		
所在地	大阪府茨木市庄2丁目5番1号		
自己評価作成日	令和6年12月14日	評価結果市町村受理日	令和7年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和7年1月9日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当事業所は、「大家族、ゆっくり、いっしょに、楽しい、暮らし」の理念の下、グループホームの特色を生かし、入居者様と出来ることは一緒にしていただくことを職員共通の理解とし、入居者様の生活を職員が支援しています。入居者様に日常の中で役割を持って生活を送っていただき、出来ることは、ご本人様にしていただくことが、ADL向上につながり、さらに、認知症の進行の緩和にもつながると考えています。入居者様には、いろいろな季節の行事に参加していただいたり、敷地内に畑を設けて、農作物の収穫などを通して、季節感を味わっていただくように心掛けています。近隣の公園への散歩やスーパ一等への買い物やなど、外出の機会もコロナの影響もあり、以前と比べて制限はあるも、筋力向上等をかねて実施している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所の建屋は一部2階建の木造で、利用者の居室と共有スペースは1階にある。玄関ホール、食堂兼リビング、和室、廊下は、ゆったり広々としており、利用者に圧迫感を感じさせない落ち着いた居住空間である。その中で利用者は、職員といっしょに食事、会話、ゲームや歌唱や塗り絵などのレクリエーション、季節の行事を楽しみながら、ゆっくりと暮らしている。道路側には植栽が回らされ、角目の桜の木が春を彩り、建屋西側にはウッドデッキと十数坪の畑があり、外観は大きな我が家の趣がある。ウッドデッキにベンチが置かれ、利用者同士や利用者と家族が談笑する場となっている。菜園では利用者が季節ごとに胡瓜、トマト、さつま芋等の野菜を育て、収穫を楽しみ、味わっている。また、事業所では毎月1回、日曜日に家族会を開催し、家族の意見や要望を聞く機会を設けている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	大家族、ゆっくり、一緒に、楽しい、くらし」を理念に掲げ、それを具現化して現場で実践できるように取り組んでいる。	昨年、管理者は職員と従来の理念の見直しを話し合ったが、継続してケアに活かしていくことに決めている。理念は職員が確認しやすいように事務所内に掲示をしている。職員は理念の如く利用者といっしょに、楽しく唄を歌ったり、ゲームをしたり、たこ焼きを焼いたり、ゆっくりした暮らしが送れるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に所属して、地域の行事や地区清掃などに参加させていただき、交流を深めるように取り組んでいる。	自治会に加入して、年2回の地区の清掃活動に参加して地域貢献を図っている。地域の祭りのお神輿が事業所前を練り歩いてもらえるように頼んでいる。利用者を連れて駅前のパン屋やスーパーに買い物に行ったりして地域の人々と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加することで地域の方と直接、交流することで貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で外部評価、実地指導等の結果報告及び説明を行い、意見をいただくように取り組んでいる。	運営推進会議は偶数月日曜日午後、家族会の後に開催され、地域包括支援センター職員、地区の民生委員2名、家族代表1名が参加している。事業所側から運営状況、行事予定、事故件数などを報告し、その後に参加者との意見交換をしている。会議録は家族等へ送付している。	家族等へ送付する議事録には利用者の個人情報については匿名とし、個人に係る詳細な記述を避けることを望む。また、次の開催予定日時を記載して家族への出席を促し、出席できない家族等には意見を求める文言を付け加えることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	用事の際には、顔を出すようにして、そこで情報交換を行うようにしている。また、市から派遣される介護相談員と連携を図るように取り組んでいる。	管理者は、必要時に市の長寿介護課、福祉指導監査課に出向き、相談をしている。また年2回開催される市内高齢者福祉施設部会に出席することもある。生活保護受給の利用者1名が入居しており、市の生活福祉課担当者と常に連携している。市の介護相談員を毎月受け入れており、助言をもらって利用者支援に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修の実施。事業所の理念の中に身体拘束の廃止を含めており、実践している。必要な場合、同意を得て、記録を残すようにしている。3か月ごとに	身体拘束適正化指針を整備し、3か月に1回、身体拘束廃止・虐待防止委員会を開催し、併せて職員に対して研修を行っている。スピーチロックが過去にあったので職員間で互いに注意し合っている。現在、センサーマットや感知センサーなどは使用していない。フロア内の移動は自由であるが、入り口のドアは防犯上、施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な内部研修の実施と委員会の設置により防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者が居ないため、研修のみ実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には、管理者が説明を行い、疑問点を尋ねながら、懇切、丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。 家族会でご家族様との個別面談を月に1回実施している。	毎月1回、日曜日の午後に家族会を開催し、家族からの要望や意見を聴いている。遠方の家族とは電話や手紙で把握している。自由な面会の要望があるが、依然、新型コロナやインフルエンザなどが流行しているので面会は玄関またはウッドデッキに於いて親族3名まで20分間に制限をしている。しかし家族から理美容・法事・墓参りの外出要望には応えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフミーティングなどで意見を反映している。	勤務シフト作成時に非常勤職員も出席できる日を予め決めて毎月1回のスタッフミーティングを開催し、水分を取らない利用者の水分補給などの介護困難事例について意見を出し合って改善策を話し合っている。朝の申し送りや連絡ノートを活用しており、日頃から職員間のコミュニケーションが良好で、職員の意見や提案が日々のケアに活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には資格等により、給料に差を付け待遇をよくしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の実施。月1回のスタッフミーティングでの定例学習会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設連絡部会等へ参加して、意見交換等を行い交流を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問調査、施設見学、個別面談を通して、信頼関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問調査、施設見学、個別面談を通して、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、相談を受け入れ、よく話を聞いた上で事業所の説明、他の事業所の説明を行い、その他、必要なサービス等についての情報提供をしていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当ホームでは、出来る限り、調理、清掃などの面で入居者様と職員で協力して行うことを旨とし、互いに対等な関係を保てるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や行事、外出の機会を通して、入居者様とご家族様と職員で支援をしている。また、当ホームに来所が困難なご家族様にはすえひろだよりやホームページを利用して必要な情報をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り、入居者様がこれまで使用してきたもの等を引き続き使用していただくようにしている。また、入居者様の知人様の訪問も受け入れている。	新型コロナやインフルエンザなどが依然と流行しているため家族等との面会は、親族のみ3名までが玄関またはウッドデッキに於いて20分間だけ認められている。流行が終息すれば居室での面会を検討している。しかし家族から理美容・法事・墓参りなどの外出の要望には応えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内でお互いに役割を持っていただくことで、作業等を協力して行えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特段取組んでいない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	当ホームでは、これまでの生活を基盤にして生活を継続出来るように支援をしている。さらに、必要に応じて再アセスメントも実施している。	管理者は、入居時に家族等から利用者の生活歴、嗜好、趣味等を聴いてフェースシートに記録しアセスメントをして職員間で情報共有している。入居後は家族会や面会時にも家族から意見等を聞いている。居室担当職員が日頃のケアの中で利用者の思いや要望を聴き取り、連絡ノートや業務日誌に記録し、職員間で情報共有してケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様、ご家族様からの情報を基にして入居者様の生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床、就寝に関しては希望に添えるように取り組んでいる。趣味を考慮したレクなどへの参加を呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを通して、入居者様、ご家族様、計画作成担当者と話し合って作成している。	計画作成担当者兼管理者は、3か月に1回のケアカンファレンスで聞き取った利用者の日々の状況と3か月ごとのモニタリング結果を基にアセスメントを行っている。介護計画は短期3か月、長期6か月を基本とし、アセスメントを基に医師の意見、家族の要望などを考慮して立てている。状態に変化があれば、その都度ケアカンファレンスを開いて計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護職員はケアの中で気づいたことを記録するようにひとり一人心掛けています。個人的に指導もしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば、個別送迎などで、外出に出かけて、買い物などをさせていただきようとしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は、社協のボランティアセンターを通してボランティアの方に来ていただき、交流を図り、楽しんでいただいていたが、コロナの影響のため現在はできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	受診は出来る限り、入居者様がこれまで通院されていた病院の主治医の下で受診できるようにご家族様の協力を得ながら、支援をしている。	利用者・家族の希望するかかりつけ医を優先し、従来の内科医師(4名)と協力医療機関の内科(各々月2回)の訪問診療を受けている。歯科の訪問診療は全員が協力医療機関の訪問診療を受けているが、個々の状態や治療内容によって受診頻度は異なる。内科医とは夫々24時間オンコール体制で、連携が密にとれる環境となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	近隣の診療所の医師、看護師に適宜相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の病院の医師、看護師等と連携を図りながら、必要な情報があれば提供するようにしている。また、退院の際は、入院中のご本人様の情報を聞いて、退院に備えて情報を提供していただくようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じ、入居者様、ご家族様の思い、医師の見解を確認しながら、話し合い等により支援の方法を決定している。	入居時に重度化・終末期ケアの対応指針文書と「私の意思表明書」で、利用者・家族の意向を確認し、同意書を交わしている。身体状態変化時は管理者から状態説明を行い、要望に応じて医療面についての説明を主治医が行い、終末期の方針を確認して取り組んでいる。過去に看取った利用者はいるが、今年度は看取り該当者はいない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習とAED講習を定期的実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を実施、防災訓練は年1回実施している。	消防訓練(年2回)と水害を想定した防災訓練(年1回)を利用者も参加して実施している。緊急連絡は職員の携帯電話を利用している。居住空間が1階の東西南北に出入り口があり避難経路が取りやすい構造となっている。日中・水害想定訓練は実施しているが、夜間及び地震想定訓練や、備蓄品の管理が課題となっている。	昼夜を問わずあらゆる災害を視野に入れた避難方法と経路を職員全体で話し合い、それに基づいた訓練の繰り返しと、備蓄品の種類・数量と購入日・賞味期限等の管理精度の向上を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修を実施している。	対人ケアの心構えとして、常にその人の立場にたつての話しかけや声掛けに努めている。廊下に面しているトイレや浴室のドアの開閉には、プライバシー保護と羞恥心への配慮に徹している。トイレへの声掛けは小声でさりげない誘導に努め、重要書類・個人情報書類は適切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定出来る範囲で尊重して、行事、企画、レクレーションなどを支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、入居者様のニーズを尊重するように心掛けているものの、希望に添えていない部分もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ馴染みのある美容院等へ行っていただけるように、ご家族様にお願いしている。難しい方は当ホームの訪問理容を利用してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、それぞれ役割を持って、調理、準備、片付けを職員と一緒に実施している。	配食業者の献立と食材で、職員全員が交代で調理している。月1回のおやつレクリエーションは、好みを摂り入れ、かき氷・どら焼き・お好み焼き・たこ焼き等を職員と一緒に作り楽しんでいる。お米とぎ・盛り付け・食器拭き・テーブル拭き等の簡単な作業に利用者は参加している。敷地内の菜園のきゅうり・トマト・サツマイモが食卓に上がる時もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給の記録の実施。水分を取りやすいようにお茶、ジュースなど種類を増やして提供している。栄養管理は、食材会社の栄養士の方がされている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの実施。月4回の歯科往診の実施。夜間は、義歯を消毒実施。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適切なトイレ誘導により、出来るだけ入居者様が望まれる排泄の方法で出来るように介助等を行っている。	生活リズム表の排泄項目を参考に、個々のパターンや習慣に合わせて事前の声掛けで、日中及び夜間時も利用者全員がトイレでの排泄を行っている。夜間時は3時間毎の見回りとしているが、利用者ひとり一人のリズムに合わせて声掛けを行い、良眠できるように心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションで体操をしたり、天気の良い日には、散歩に出かけたりと、出来るだけ体を動かしていただくことで便秘の予防を図っている。毎日、野菜、乳製品を食べていただいて便秘の予防を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間については、出来る限り、入居者様の希望に添えるように取り組んでいる。	週2階の午前中を入浴の基本としている。三方向介助可能な浴槽で一人ずつ湯の交換を行っている。浴槽に浸かるのを嫌がる人(1名)にはシャワー浴で対応し、季節の菖蒲湯や入浴剤で変化を楽しんでいる。乾燥肌の人は薬剤師の調合の保湿ローションや、好みの物を使用している人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、臥床、休息が必要であれば、随時、居室等で休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様のお薬を当ホームで預かり、職員がセットすることで、全職員が理解出来るように配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限り入居者様が望まれるレクリエーション、外出、企画、行事を実施して支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ入居者様の希望に添って、買い物、散歩、地域の行事等への参加など外出の機会を設けている。 外出先の希望も聞くようにしている。	日常の外出は天候や体調に配慮しながら、週3回は周辺散歩やスーパーの買い物に出かけて、気分転換と閉塞感解消に努めている。リビングの大きな窓に続くベランダのプランターの花の水やりや、敷地内の菜園の水やりで外気に触れる機会がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の所持金の預かりは行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて、事務所の電話を使用いただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや季節ごとの行事の写真の掲示や季節に応じた飾り付けなどで季節感を少しでも実感出来るように配慮している。	空気清浄器を設置し、換気と消毒をこまめに行い、共有部分の清掃は職員が行い、清潔保持に努めている。リビング兼食堂に繋がる和室は、こたつのある過ごし易い空間で、昼寝や洗濯物たたみなど多様な活用となっている。壁面には職員の顔写真・末広便り・季節の貼り絵等を飾り和やかな雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに和室があり、馴染みのある入居者様同士もしくは一人で過ごしていただく場としている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、入居者様がこれまで使い慣れてきた品々を使用していただけのように配慮している。	利用者の顔写真と名前の表札をドアに掲げ、これまで慣れ親しんだミニ収納ケースや・テーブル・椅子・テレビ・ぬいぐるみ・ぬり絵等を飾り自分らしい過ごしやすい居室となっている。高さのある家具は置かず、安全面と動線に配慮し、洗面台・押入れが設置され居心地良く過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いす用のトイレ、浴室、廊下、居室のベッドに手すり等を設置している。		